

教科と総合的な学習をリンクするもの

はじめに

これからの総合的な学習は、教科とリンクすることが大切である。教科とリンクしない総合的な学習は、子どもの活動だけで力を付けないものになると考える。このように考えると、教科と総合的な学習をリンクさせるものは何かということが問題となる。そこで、本稿では、この問題について考えてみよう。結論から言えば、教科と総合的な学習をリンクさせるものは、子どもが創る知であると考えられる。このため、子どもが創る知について考察してみよう。

I 子どもが創る知

子どもが創る知は、①創られる知、②知の創り方、③他者とのかかわりによる知、に大別できる。本項では①と②、③に分けてそれぞれについて述べよう。

ア 創られる知と知の創り方

創られる知や知の創り方は、例えば、植物の成長の学習を事例にすると、次のように説明できる。この学習のねらいは、植物の成長には日光や肥料などが関係していることである。ここでは、植物の成長には日光、肥料などが関係しているということが創られる知に相当する。この知を創るためには次の方法を用いる。例えば、肥料が成長と関係しているという知を創るためには、水や日光を固定して肥料を与えた植物と肥料を与えない植物とを用意し、両者の違いを観察するという比較対照実験の方法を用いる。また、同様の手続きにより、日光が成長と関係するという知を獲得する。植物の成長には日光、肥料などが関係しているという知を創るためには、関係しない要因を固定し、関係する要因について比較対照することが必要である。このように、要因を制御し比較対照することなどが知の創り方である。

イ 他者とのかかわりによる知

他者とのかかわりによる知は、次のように説明できる。前述の事例を例にすると、日光が植物の成長と関係があると考えたグループや、肥料が植物の成長と関係があると考えたグループは、互いの各グループの実験結果を報告し合い、互いに調べていない実験結果に関する知を獲得する。つまり、それぞれ別の要因を調べたグループ同士が互いにかかわることから、互いにそれぞれの実験結果の価値を認め合い、各グループが自分の調べていない要因についての知を獲得する。このような知が他者とのかかわりによる知の一つである。また、他者とのかかわりによる知という場合、エキスパートとのかかわりがある。この場合の知は、エキスパートの「わざ」や生き方などを真似ることがその基本であり、その「わざ」や生き方などから、子どもは自分がもたない世界観をもつエキスパートを尊敬したりするようになる。

したがって、同年齢同士あるいはエキスパートなどの異年齢とのかかわりにより知を獲得していくことが、他者とのかかわりによる知であるといえる。そして、子どもが他者とかかわることによって他者のよさに気づきそれを尊重し、他者を尊敬するとともに、自己のよさや可能性にも気づくようになる。

II 教科と総合的な学習をリンクさせるもの

今まで述べてきたことは、次のように整理できる。子どもが創る知には、創られる知や知の創り方、及び他者とのかかわりによる知、があるといえる。今までは、知といえば、主に、創られた知を意味することが多かった。しかし、これからは、知を、創られる知や知の創り方、及び他者とのかかわりによる知という側面からとらえ、そのような知を創造する教科の学習を構想し、展開することが大切であるといえる。このようにして創造される知が総合的な学習とリンクできると考える。したがって、教科と総合的な学習をリンクするものは子どもが創る知であるといえる。

広島大学大学院教育学研究科教授

広島大学附属福山中・高等学校校長 角屋重樹